

合理的選択からの逸脱に影響を及ぼす 行動経済学的諸要因に関する統合的研究

(研究課題番号 09610067)

平成9年度～平成12年度科学研究費補助金 (基盤研究C)

研究成果報告書

平成13年 3月

研究代表者 高橋 雅 治

(旭川医科大学・医学部)

はじめに

現代社会においては、年金やインフォームド・コンセント等の極めて重大な選択を迫られる事態が急速に増えてきており、複雑な事態における選択行動についての一般法則の解明が急がれている。これと平行して、行動分析において行われてきた選択行動の研究と、意思決定に関する認知的研究の統合の可能性が指摘され、各分野において非常に活発な研究が行われている。

それらの主な研究対象は、合理的選択の問題である。従来の研究から、成人は確率や平均などの数学的な知識があるにもかかわらず、必ずしも合理的な選択を行わないことを示唆するデータが次第に集まりつつある。そのような知見は、従来の意思決定研究の様々な前提の再検討を要求するという意味で理論的に重要であるのみならず、人間の選択行動の諸特性を規定する要因の解明につながる情報の宝庫として非常に大きな注目を浴びている。本研究では、人間の選択行動を規定するいくつかの基本的な要因を合理的選択という視点から分析することにより、不確実状況下での選択行動を規定する心理行動的な諸要因を解明することを目的とする。

1 研究課題 合理的選択からの逸脱に影響を及ぼす行動経済学的
諸要因に関する統合的研究

課題番号 09610067

2 研究代表者 高橋 雅治（旭川医科大学・医学部・教授）

3 研究経費 平成9年度 800千円

平成10年度 600千円

平成11年度 500千円

平成12年度 600千円

4 研究発表

(1) 学会誌等

Takahashi, M. Concurrent schedule control of human observing during auditory vigilance. Behavioural Processes, 40, 53-59, 1997.

Takahashi, M. A behavioral measure of selective listening. *Perceptual and Motor Skills*, 85: 75-79, 1997.

高橋雅治 選択行動の研究における最近の展開：比較意思決定研究にむけて。行動分析学研究, 11: 9-28, 1997.

Takahashi, M. & shimakura, T. The effects of instructions on human matching *The Psychological Record*, 48, 171-181, 1998.

Takahashi, M. Preference and resistance do not always covary. *Behavioral and Brain Sciences: Open Commentary*, 23, 112-113, 2000.

(2) 学会発表

高橋雅治 弁別仮題の構造分析と行動対比 日本動物心理学会第 57 回大会, 1997.

高橋雅治 単価と強化確率がヒトのセルフ・コントロールに及ぼす効果－個体内比較－. 日本心理学会第 61 回大会, 1997.

高橋雅治 条件刺激と吉報凶報仮説. 日本動物心理学会第 58 回大会, 1998.

高橋雅治 遅延報酬の時間割引－ I . 報酬金額効果の被験者内比較による検討－. 日本心理学会第 63 回大会, 1999.

高橋雅治 遅延報酬の時間割引時間割引に関する異文化比較研究の可能性. 日本心理学会第 63 回大会シンポジウム招待講演, 1999.

高橋雅治 遅延報酬の時間割引－ II . 大学生における報酬金額と生活形態の効果－. 日本心理学会第 64 回大会, 2000.

Takahashi, M. Temporal discounting of delayed rewards: Effects of type and amount of reward. *The 27th International Congress of Psychology*, 2000.

(3) 出版物

Shwal, D, Shwalb, B. & 高橋雅治 初めての心理学英語論文－日米の著者からのアドバイス－. P.163. 北大路書房. 1998.

5 研究成果の概要

本研究は、以下の3つの枠組みから構成されていた。

- A. 選択行動の研究における最近の展開に関する文献的研究
- B. 実験場面における人間の選択行動に影響を及ぼす手続き的諸要因の解明
- C. 合理的選択からの逸脱に影響を及ぼす行動経済学的要因に関する統合的研究

まず、Aの研究において、選択行動研究における最近の動向が概観され、選択行動を規定する諸要因に関する過去研究が整理された。

次に、Bの研究において、聴覚的注意集中を分析するための手法が開発され、その手法を用いて聴覚的注意集中場面における人間の選択行動（注意配分行動）が実験的に分析された。その結果、そのような注意集中場面においては、合理的な選択からの逸脱が見られることが実験的に示された。

さらに、Cの研究では、得点を獲得する課題における人間の選択行動が実験的に分析され、被験者が確率や平均などの数学的な知識を利用する場面であっても、必ずしも合理的な選択を行わないことを示された。そこで、そのような合理的選択からの逸脱を規定する行動経済学的な諸要因に関する統合的な分析が試みられた。以下ではこれらの成果を報告する。

目次

A. 選択行動の研究における最近の展開に関する文献的研究	
選択行動の研究における最近の展開：比較意思決定研究にむけて	
高橋雅治 5	
B. 実験場面における人間の選択行動に影響を及ぼす手続き的諸要因の解明	
Concurrent schedule control of human observing during auditory vigilance.	
Takahashi, M. . . . 25	
A behavioral measure of selective listening.	
Takahashi, M. . . . 32	
C. 合理的選択からの逸脱に影響を及ぼす行動経済学的要因に関する統合的研究	
The effects of instructions on human matching	
Takahashi, M. & Shimakura, T. . . . 37	
Preference and resistance do not always covary	
Takahashi, M. . . . 48	
単価と強化確率がヒトのセルフ・コントロール反応に及ぼす効果	
高橋雅治 50	
遅延報酬の時間割引	
高橋雅治 60	